

フェニックス会が勉強会 火災保険の物件調査テーマに

フェニックス会(大西敏夫会長)は8月30日午後1時30分から大阪市浪速区の難波市民学習センターで勉強会を開いた。同会は旧同和火災の関西地区の代理店が中心となって構成している会である。

午後1時30分から2時40分までは会員同士の情報交換が行われ、日ごろの活動の中で疑問点などを意見交換した。

午後3時からは株式会社ウインライフの小野力氏を講師に招き、「火災保険の物件調査について」



小野氏による銘板の見方説明

の勉強会が開かれた。まず、一般物件と工場物件との見分け方について解説。①使用動力50kW以上、②使用電力100kW以上、③作業人員が常時50人以上のいずれかに該当すると工場物件となる。一般物件は地域重視、工場物件は業種重

視の料率となり、業種により工場物件の保険料が安くなる場合もある。

実際に工場にある機械の写真を見ながら、機械に付けてある銘板に書いてある内容や数字の読み方などを説明。中には理解しづらい専門用語や古いものがあり、業者に問い合わせたりカタログを取り寄せるなどすることが必要という。「工場すべてを回っても工場物件と一般物件の区別がしづらい場合がある」が、電気代などを参考にしたり、キュービクル(高圧受電設備)の設置の確認をしたりするなど確かめることも一つの方法と述べた。